

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	宇井 美代子	所属	玉川大学
研究集会等名称	公益社団法人日本心理学会ジェンダー研究会主催 日本心理学会第76回大会ワークショップ 「大学（院）教育におけるジェンダー・フェミニズム」		
成果概要	<p>1) 参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください）</p> <p>会員 11 名（うち認定心理士 1 名） 非会員 2 名（うち認定心理士 0 名）</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 （実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください）</p> <p>○公開研究集会の目的 日本心理学会ジェンダー研究会では、心理学研究にジェンダーやフェミニズムの視点を取り入れることの意義について、シンポジウムやワークショップで議論を行ってきた。それは、伝統的な心理学の手法や理論を批判的に検討しつつ、現代の諸問題に対する新しい見方と解決策を提案するという意味をもっていった。また、研究者としてのアイデンティティを確認しつつ、主流の心理学にいかに関与を与えるかという試みであった。これらの試みから、ジェンダーやフェミニズムの視点の意義を研究の場だけではなく、いかに教育現場で伝達していくのかという検討課題も浮かび上がってきた。そこで、ジェンダーやフェミニズムの視点を取り入れた大学教育や大学院教育とはどのようなものであるかを検討することを目的として、本公開研究集会を開催した。</p> <p>○公開研究集会の実施内容・成果 本公開研究集会では、4名の話題提供者により、教育実践のあり方や諸問題について発表がなされた。具体的には、(1)ジェンダーやフェミニズムの視点から見えてくるキャリア教育の課題、(2)性役割に対する意識を中心とした大学生の意識の現状と教育の実践、(3)女性の自立に対するファイナンシャル・リテラシーの重要性と調査結果、(4)臨床家育成においてジェンダーやフェミニズムの視点を教育することの重要性と教育実践が報告された。これらの報告に基づきながら、指定討論者を中心に、教育の様々な分野にジェンダーやフェミニズムの視点を導入することの意義、さまざまな形式での教育実践の可能性についての議論が展開された。同時にジェンダーやフェミニズムの視点を取り入れた教育の実践方法や理論化の点において、解決すべき問題についての確認もなされた。</p> <p>○将来計画 今後は、本公開研究集会で提起された問題点のさらなる検討も含めて、研究部会として研究の継続発展に努め、研究成果の公表を行っていきたい。</p>		